

会 議 録	
会議の名称	平成29年度第3回清須市地域公共交通会議
開催日時	平成30年2月14日（水） 午前10時00分から午前11時45分
開催場所	清須市役所北館2階 第1会議室
議題	1 開会 2 議事 [報告事項] (1) コミュニティバス運行・利用状況について [協議事項] (1) コミュニティバスの増便に係るルート・ダイヤ改正【平成30年10月1日】(案)について (2) 平成30年度コミュニティバスの利用促進施策(案)について (3) 平成30年度レンタサイクル事業(案)について 3 その他 4 閉会
会議資料	会議次第、配席図、委員名簿 [会議資料] 資料1 コミュニティバスの運行・利用状況概要 資料2 専門部会におけるコミュニティバス増便素案に係る協議結果 資料3 全体ルート図(案) 資料4 ダイヤ表(案) 資料5 平成30年度コミュニティバスの利用促進施策実施計画(案) 資料6 平成30年度レンタサイクル事業(案) 参考資料1 スケジュール 参考資料2 相乗りタクシーの実証実験に向けた申請を許可
公開・非公開の別 (非公開の場合はその理由)	公開
傍聴人の数 (公開した場合)	1人
出席委員	前田(繁)委員、山田委員、谷野委員、林委員、後藤委員、石原委員、加藤(榮)委員、宮崎委員、加藤(博)委員、杉本委員(代理)、桑原委員(代理)、堀野委員、古田委員、栗木委員(代理)、蝦名委員、飯田委員(代理)
欠席委員	岩田委員、多田委員、宮崎(稔)委員
出席者(市)	なし
事務局	(企画政策課) 河口次長、赤羽副主幹、藏城副主幹、杉原係長、横幕主査、服部主事
会議録署名委員	山田委員、宮崎委員
1 開会	

●事務局

定刻となりましたので、ただ今から、平成29年度第3回清須市地域公共交通会議を開会いたします。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、企画部企画政策課の藏城です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、開会にあたりまして、前田会長が若干遅れてみえますので、代わって事務局を代表して企画政策課長からごあいさつをさせていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

2 あいさつ

●事務局（河口次長）

おはようございます。会長が若干遅れてみえますので、会長に代わりまして、私から一言あいさつをさせていただきますと思います。

本日は、大変お忙しい中、第3回清須市地域公共交通会議へご出席いただきまして、ありがとうございます。

本日の会議につきましては、今年の10月に予定しております増便後のルート・ダイヤ改正についての協議が議題となります。11月に第2回の会議で協議させていただいたのち、12月に専門部会ということで市民の方を中心に再度練らせていただいた結果についての詳細説明が後で事務局からあると思いますけれど、それを踏まえて、本会でありますこちらの公共交通会議での議論をしていただいて、その結果を反映させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議を進めさせていただきたいと思っておりますので、忌憚のないご意見よろしくお願いいたします。

●事務局

それでは、議題に入らせていただく前に、人事異動等により本日からご参画いただく委員様をご紹介します。

第4号委員で、西枇杷島警察署交通課長の堀野委員です。続きまして、第5号委員で、つばめユニオン副委員長の蝦名委員です。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、本日の会議の出席状況について、ご報告します。

本日の欠席委員は、第4号委員で愛知県尾張建設事務所維持管理課の岩田委員、第5号委員で名古屋タクシー協会の多田委員、第6号委員で清須市企画部の宮崎委員の3名の方が欠席となっております。

また、他の公務のため、第3号委員で国土交通省 愛知運輸支局の杉本委員におかれましては森様に、第4号委員で愛知県交通対策課の桑原委員におかれましては塚崎様に、第5号委員で愛知県バス協会の古田委員におかれましては栗木様に、同じく第5号委員でつばめ自動車株式会社 バス事業部の栗木委員におかれましては大島様に、第6号委員で清須市建設部 都市計画課の飯田委員におかれましては前田様に代理でご出席いただいております。

それでは、これより議事に入りますが、ここで、事務局からお願いがございます。

当会議の議事録を作成するため、会議でのご発言について、次の2点についてご協力をお願いいたします。

まず1点目ですが、ご発言にあたっては、必ず挙手をしていただき、会長の指名を受けてください。

2点目ですが、会長の指名を受けた委員様には、係の者がマイクをお持ちしますので、その都度、ご自身のお名前を仰っていただきながら、ご発言いただきますよう、お願いします。

それでは、会長到着までの間、事務局で進行させていただきます。

3 議事

●事務局

では、本日の会議録署名委員をご指名させていただきます。

本日の会議の会議録署名委員は、座席順に宮崎委員と山田委員にお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

それでは、本日の議事に入ります。

本日の議事につきましては、お手元の次第のとおり、報告事項が1件、協議事項が3件となっております。

それでは、次第の順に報告事項について議事を進めさせていただきたいと思います。該当資料について、事務局から説明をさせていただきます。よろしくをお願いします。

[報告事項(1)について事務局から説明]

●事務局

それでは、この報告について、ご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

●森委員代理

本日代理で出席させていただいております、愛知運輸支局の森でございます。どうぞよろしくお願いします。

各3ルートともに11月から1～3月まで数字はこちらの表にはないですけれども、気温が下がってくると外出を控えるという傾向で利用者数が減少しますので、この時期に何かイベント等を行っていただき、利用促進を図っていただけたらと思いますけれども、いかがでしょうか。

●事務局

本日の協議事項の中でもご協議いただきますが、コミュニティバスの利用促進につきましては、計画をある程度定めさせていただきまして、計画どおり進めさせていただいております。その中で、この冬の時期というのは市のほうでもイベント事がなかなか少ないというところもございまして、今のところ春とか秋に開催させていただきます

市で行う祭り等でPRを行っていくという形で進めさせていただきたいと思っておりますが、この寒い時期に何かやれることがないかということ、今後検討していくことになるのかということでお答えしたいと思います。

●森委員代理

特段いま計画しているものはないけれども、今後の公共交通会議で、そういう点も協議するということですか。

●事務局

そうですね。

●森委員代理

わかりました。よろしく申し上げます。

●事務局

他にご質問がありましたら挙手をお願いします。

●山田委員

山田です。

サクラルートの7月から12月、利用者数が下がっているんですけども、これは何か原因があるのですか。一番たくさん乗れるバスの利用者が昨年より減っているということですので。

●事務局

お答えします。サクラルートは、委員ご指摘のように7月を境に前年同月の数字と比較して少なくなっているという傾向がございます。ご指摘の点について、乗降人数をバス停ごとに詳しく見てみたところ、大きく減っているバス停というのが2箇所ございました。

1つは、五条川リハビリテーション病院、それからもう1つは、はるひ呼吸器病院ということで、2箇所とも医療機関での乗車人数が減っているということが分かりました。

さらにこの2つのバス停の細かい数字を見ていきましたところ、比較した時期としましては、傾向が変わる前後1ヶ月ずつ、6月と7月それぞれの1日ごとに何便で何人乗ったかという数字を比較しました。そうしたところ、1つ傾向が見つかりまして、まず五条川リハビリテーション病院ですと、ほぼ毎日10便で乗車されていた方が6月末まで1名いらっしゃったんですけども、7月になるとこの乗車の傾向がぱったりと途絶えることが分かりました。

医療機関ですので、治療が終わったりとかということでこういった増減がある程度出るのは仕方がないのかなと思っておりますけれども、これにつきましてはほぼ毎日乗っておられた方なので、延べ人数としては結構大きく出てしまうという傾向がございます。もう少し分析の時期を広げていくと、またいくつかが傾向が新たに見えてくる可能性もありますけれども、ちょっと分析自体に時間が必要なものですから、今の

ところ分かっている要因としては、そうした要因が見られましたということでご報告させていただきます。

●事務局

山田委員、よろしかったでしょうか。

では、他に委員の方、何かございませんか。

それではここで、加藤先生の方からご講評をいただきたいと思えます。

●加藤副会長

おはようございます。やはり、今の山田委員の話が一番気になるところで、2点ありまして、減ったことも気になるんですけども、1人減ると一割減るといふ常連の方がいて、そのくらいの量だということも注意しなきゃいけないです。常連客の存在は、とてもありがたいですが、その方が乗られなくなると、どうしても影響が大きいということです。

コミュニティバスは、合計で何人乗っているかということも大事ですが、実人数ベースで、市民の何人くらいが年間利用しているかも大事なところで、同じ100人でも、その100人の方が一回ずつ乗っているのか、1人の方が100回乗っているのかでは、全く意味が違いますよね。

ですので、常連客の割合がどのくらいなのかを確認できればなということをおもっていました。

特に病院への通院目的の方ですね。通院だと常連の方が結構いて、毎週必ず通うといったペースで利用されます。なのでそういう方が1人減ると、全体の利用者数が大きく減ることになります。

清須市は通院が主目的ではなくて、買物目的が多いので、比較的利用目的のバラエティのバランスがあると思いますが、感触としてどうなんでしょうか。いわゆる常連さんは、かなり大きな割合を占めているんでしょうか。そこをちょっと確認してみたいと思います。

だから、常連さんが1人いなくなったので、大した問題ではないのか、それで大きく利用者が減るほど特定の人しか使っていないのかっていうのは、とても大事なところですよ。ただ、これはルートによって違うかもしれないですね。

●事務局

はい、分析をしてみたところが先ほど申し上げた2つの病院のバス停しか今のところ手元に詳しいデータがないんですけども、先生のおっしゃったように何便で何人乗車、何人降車ということが、ある程度の、まあ2カ月分しか実際数字がプロットしたものがないんですけども、例えば何曜日に必ず乗る人がいるですとか、そういった傾向はある程度これで掴めるかと思えます。手元には病院のバス停分しかないですが、大体の傾向としては、やはり午前中の便で乗って、午後の便で帰られるというような傾向が、ある程度は見取れます。おっしゃったように想定してみると、その常連の方が何人かいらっしやっ

て、延べ人数を大きくしている状況が想定されますので、そういったこともあわせて、これからも考えていかなきゃいけないなどは認識しております。

●加藤副会長

なので、常連客の割合が大きいと、その方がいなくなると、どっと実績が下がるということがずっと続いていきます。段々と常連の方が乗られなくなってきて、だけどダイヤ的にはそういう方がよく使うようなダイヤになっているという状況で、新しいダイヤに変えづらくなるということです。

これが長くやっていると、おちいりやすい弱点というか、既存の利用状況だけで評価すると、実はここは乗降が多いので大事だっていうんだけど、実人数では一人だったということもあります。もちろん、その方が乗れなくなったら困るので、あれですけども、そこがあまりにも偏りすぎると間違うところですよ。

なので、一度そういう意味で、見直しはやはり新しい方がどのくらい入っていただけるかっていうのをよく考えてやらないといけないと思います。

そこが気になったところで、最終的にどうなんでしょう。他ルートが増えているので、全体としては横ばいだから、3月までやると若干増とかで落ち着くのかな。あとあれですか、清須市は割とずっと増えていますからね。

●事務局

そうです。ずっと今まで基本的には右肩上がりで、きております。ここにきて今ちょっと上がり幅が落ちてきて、昨年同数か若干上がってきて、増え幅が落ち着いた微増傾向に変わってきたというところですね。

●加藤副会長

先日富山県のある町の方から聞かれました、ここは50カ月連続前年同月比増だと、これは日本記録じゃないのかということですね、それは分からない、そんな統計ないからと。清須市はもう10年以上やっていますかね、ずっと増だとすると、これは結構珍しいことです。

まあ、利用者の増減に一喜一憂するのは、ちょっとと思います。その富山県の町なんかは、もう29日とか30日ぐらいになると、足りないからみんな乗れって言われて乗るみたいです。

月単位だと、その月は日曜日が多いとか、それこそ雪などの天候の影響とか、そういうことがあるわけなので、あまり月単位で利用者実績にこだわっていても、いけないなって思いますが、これまで着実に利用者が増えてきたということは、すごくいいことです。ただ、資料を見ると来年度はまずいかなっていう兆候が出てきたかなというのは感じます。

なので、利用促進は本当にやっていかなきゃいけないなって思います。

●前田会長

ありがとうございます。

会長の前田でございます。今日は遅れてしまいまして、申し訳ありませんでした。

それでは、よろしいですかね。今の事務局から報告事項につきましては、加藤先生からご講評をいただきました。ありがとうございます。他に委員さんよろしいでしょうか。

続きまして、協議事項の議事に移りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

まずは次第の順に進めたいと思います。(1) コミュニティバスの増便に係るルート・ダイヤ改正【平成30年10月1日】(案)についてを議題といたします。事務局から説明をお願いします。

[協議事項(1)について事務局から説明]

●前田会長

はい、ありがとうございます。ただ今事務局から説明がございました。各委員さんからご意見、ご質問等がありましたらお願いします。

●宮崎委員

宮崎と申します。ルート改正のことですが、清洲総合福祉センターへ乗り換えないといけなくなるので、これは今までの方がいいと思うんですけれども。お願いいたします。

●事務局

清洲総合福祉センターのバス停でございますが、こちらブルールート上でございます。ですので、ヨシヅヤ清洲店での乗り換えという形でご利用いただければと思います。

●宮崎委員

宮崎です。今まではグリーンで帰って来たんですけど、グリーンは清洲総合福祉センターに停まるものですから。それが何か停まればいいんですけどね、総合福祉センターから西枇杷島の方に真っ直ぐ帰ってこられるバスがあればいいんですけれどもと思って、ちょっと聞きかたかったです。障がい者の方への対応もあるし、わたしも教室なんかでそこへ行ってるもんですから、真っ直ぐ帰ってくるバスがないと困るなと思いました。すみません。

●事務局

バス停といたしましては、先ほど申し上げたようにブルールートになるものですから、どうしても乗り換えは現状と比べては必要になるというような状況でございます。

今のところのダイヤ案で申し上げますと、ブルールートは1時間に1周する形になっております。他のルートは2時間で繰り返すパターン

ンダイヤとなっておりますので、設定上はブルーがヨシヅヤに来ると、必ずいずれかのルートには接続出来るように考えております。ですので、例えば乗り換えを前提という形にはなりませんけれども、宮崎委員にご利用いただいているグリーンルートですと、ヨシヅヤに接続するブルールートに乗っていただいて、ヨシヅヤではオンタイムで乗り換えが可能となっております。例えばその1時間前の他のルートに接続するブルーに乗っていただいた場合ですと、例えばヨシヅヤでちょっとお買物をしていただくとかっていうことが必要になるかもしれませんが、行けなくなるということではございませんので、申し訳ありませんが、乗り換えだけはちょっとお手間が増えてしまいますけれども、行けなくなるということではございませんので、ご理解いただければと思います。

●前田会長

よろしいですか。

他に委員さんご意見、ご質問等ございませんか。

●森委員代理

運輸支局の森です。今日の資料にダイヤ案がありますけれども、休憩時間がそれぞれ確保されています。実際の運行の中では、遅延が発生したりすることもあります。運行事業者さんもこの会議にお見えですが、連続運転にならないように、そのあたり念のため申し上げておきたいと思います。

●大島委員代理

栗木の代わりに出席しております、つばめ自動車の大島と申します。よろしく申し上げます。

ブルールートの場合は、2便運行ごとに交代運転手を配置する形にしておりますので、2時間ごとに2時間ずつ休憩がとれる体制を取る予定になっております。

●前田会長

よろしいですか。

他に委員さんよろしいでしょうか。

●加藤副会長

先ほど宮崎委員のご発言にもありました清洲総合福祉センターのことですけれども、資料にもありますように、ブルールートでは1回しか停車しないというダイヤですね。ヨシヅヤから出て停まり、戻ってくる時には停まらないので、極端に言えば、行きは近いけれども、帰りはとても遠いなということになります。これはものすごいサービスダウンですね。今までは直通で行き来できていたところが、このダイヤになってしまうと、めちゃめちゃサービスダウンです。

僕の直感としては、ここは帰りにも停まらないといけないんじゃないのかなと感じました。今のダイヤの余裕時分からしても、ドライ

バーの休憩というより、遅延をカバーするためだと思いますので、改善した方がいいと思います。

●事務局

はい、ご指摘がありました清洲総合福祉センターにつきましては、余裕時分の兼ね合いと他ルートとの乗り換えの調整が必要になりますが、行きも帰りも両方停まることが出来るような方向でちょっと見直しをしていきたいと思います。

ですので、相変わらず乗り換えは必要ではあるんですけども、それが実現できればということになりますけれども、例えば、帰りの際に大回りして帰っていくということは解消できるのではないかとこのように思います。

●加藤副会長

必ず乗り換えしなきゃいけないんだけど、今のパターンだと片方に乗るとオレンジに乗り換えられて、オレンジとか他の路線は2時間おきだから、ある便だとオレンジに乗り換えられる、ある便だとグリーンに乗り換えられるというような交互に、そういう感じですね。

今だとそれが直通でそうになっていると、この改正だと直通じゃなくなるけれど、ヨシヅヤに行く时必须どちらかがいます。で、それが交互になっているということですね。

●事務局

ブルールートに関しては、例えばブルールートに乗ってその便がオレンジでの乗り換えが出来る、その次の便で乗りますと、ヨシヅヤで乗り換えが出来るのはグリーンとサクラが待っている、というような状況が交互になっていく、という設定になっています。

●加藤副会長

だから、それぞれグリーンとオレンジで南の方から乗ってくると、必ずヨシヅヤにブルーがいるので、それに乗ればすぐ清洲総合福祉センターに行ける。

帰りは総合福祉センターで乗れば今だと春日を全部回って戻ってくると、これがちょっとまずいってことなんですけども、もし両方入れれば、またすぐ7分ぐらいで戻れて、そうすると、オレンジかグリーンどっちかが互い違いにいるので、それで乗り換えて帰れるってことですよ。

●事務局

先生がおっしゃるとおりです。先ほど申し上げた見直しの方向でそれが上手いこと繋げられると思うんですけども、その見直しの後にはそういった状況になるという風に思っております。

●加藤副会長

宮崎委員のご心配は、乗り換えがあるので大体乗ったり降りたりす

るのが面倒だ、大変だ、乗り換えるのが大変だよねということなんだけれども、それを今だとあまり乗り換えのことは考えていなくて、なるべく直通でいろんなどころに行けるようになってルートなので、総合福祉センターまで直通で行ってるんだけど、それをやっていると今の資料4のダイヤの一番良いところは、2時間に1本とか1時間に1本の分かりやすいダイヤに出来ると。

ただ、その代わりどうしてもヨシヅヤで全部合うようにするので、ヨシヅヤから近いところのこの総合福祉センターだと、乗り換えをしてももらわないとそういうダイヤがつかれないっていうのがあって、ちょっとやむを得ないっていうところになっちゃったっていうことですが、総合福祉センターの性質上、乗り換えには、やはり支障があるということも考えられるので、ちょっと注意しないといけないですね。

あとはダイヤですね。時間は分かりやすくなったけれども、総合福祉センターから乗る場合、どっちに乗れば、ヨシヅヤでオレンジに乗り換えられるか、グリーンに乗り換えられるかっていうとことが分からないと、効果が半減します。

半減といっても、ヨシヅヤに行ったら、そこには何かお店だってあるんで、1時間待っていれば来るよっていうことだけれども、そういうことを利用者の皆さん、特に総合福祉センターをよく利用されてる方に教えてあげないといけないっていうところはありますね。

そういうことが、皆さんに分かってもらった上で使っていただくと、結構便利になる可能性もあるなということで、いろいろ周知をやっていかなきゃいけないですね。

結局、乗り継ぎはもう全国いたるところで失敗しているっていうか、乗り継ぎは、頭で考えたらその方が色んなところに行けるから便利になると思うんですけども、皆さん、そもそもバスに乗ったらどこに連れて行かれるか不安な人ばかりなので、本当にこのバスって行きたいところへ行くのとかっていう調子なのに、あるところまで行って、またそこで乗り換えて別のやつに乗るっていうのは、すごく不安なんですよ。

なので、そこはちゃんと乗り換えられるよっていうのをダイヤ表にも表示するだとか、分かりやすく見せるっていうのを、かなりやらないといけないなっていうのは思いますね。

なので、福祉センターのところは、改正の前2週間くらい前には、こうなりますよということを教えてあげることが必要かなと思います。そうでないと、分からないから、もう利用するのはやめたということになる可能性がある。今、直通で便利だと思っている人には、特に不便に感じるどころです。

それを考えると、余裕時間は少ないですね。これはずっと、あしがるバスでやりたいと思いつつも、いろんなどころを回ることを優先して、どうしても何分に1本というきれいなダイヤができなかったけれど、今回1両増えることで、あるところは乗り継ぎが必要になるけれど、きれいなダイヤができるのでよかったねというところですよ。

ただ、それでも欲張っていうと、どれかのバスが遅れてしまうと、

ヨシヅヤでの乗り継ぎに全部のバスが影響してしまいますので、ここまで出来てきたダイヤなので、なかなか大変ですけれども、運行時分は見直しをしたんでしたっけ。

●大島委員代理

はい、実際に走行して検証しております。

●加藤副委員長

乗り継ぎがない時は、それぞれが勝手に走ればいいので、遅れたらとにかくがんばってもらって、がんばってといっても、交通ルールは守ってもらうんですけれども、乗り継ぎになると、みんなに待ってもらう必要がありますので、全部遅れるということになります。

●大島委員代理

現状でも乗り継ぎのお客様がみえるときは、基本的に乗り継ぎ先のバスの方に無線連絡をして、ちょっと待機というか、乗り継ぎが出来るようにはしています。

●加藤副委員長

タクシー系の会社の強みですね。ありがとうございます。

今回、この乗り継ぎをやろうとすると、とても大事なポイントになりそうですね。ということなので、今回の改正で、1時間に1本になるというメリットを利用促進につなげていけるといいなと思います。

あとはあれですね、ヨシヅヤで乗り継ぐ時の話で、本当は車同士をくっつけるかたちで停めたいところです。今だと、建物の反対で待機するんでしたっけ。

●事務局

現状ヨシヅヤのバス停のところだと、縦2台くらいまでは並べられるんですけれども、3台となると、例えば他のタクシーが待っていたりすると、場所的なスペースが確保出来ないなので、そこはお店の方とも事前にお話をしておりまして、そういった場合には待機スペースというのを用意して、一旦はそちらに回って車両を置くと。またそのダイヤの時間になりましたら待機場所からそのバス停の方にぐるっと回って戻ってくるというようなことを設定しております。

●加藤副委員長

それね、結構トラブルの可能性がある。待機するからといって、そっちに行っちゃうと慌てて出ちゃうって言って走って行く人がいて、そういう時に事故が起こるんですよ。結構そこは注意が必要ですね。結構怖いんです。あしがるバスとかだと、見たらあれに乗らないといけなに行っちゃうって走って行ったら車がいたとか、あり得るので。だからそれも慎重にならないといけないですね。スペースはちょっと取れないですよ。多分このパターンだと一番良いのは島式。真ん中に島があって、そこにみんなバスが着けて、そこで乗り降りすると当

然のようにあまり歩数が多くない乗り換えが出来る。それか、縦。縦に並べば、そこに上屋があれば濡れないで前 رفتたり後ろ رفتたりと
かって乗り換えられる。っていうことですが今回そこが大事になりますね。最大3台並ぶんですもんね。

●事務局

はい、そうですね、ヨシヅヤですと最大ブルーとグリーンとサクラの3台がおりますので、そのタイミングでは2台までということになりますので、もちろん1台は待機する必要があります。

先生がおっしゃるように、事故を防ぐというか安全面から考えますと、そういったことの周知も今後補っていく必要があるのかなと思いますので、先ほどの乗り換えの分かりやすい周知ということもあわせて、例えばバス停に乗り換えを分かりやすく表示できないかといったことも含めて検討をさせていただきます。

乗り換えにつきましては、乗り換えのモデルコースマップというのを作る予定でおりますので、そこになるべく分かりやすい形で掲載をして、市民の皆様の手に渡るように算段をしていくということも必要だと考えております。

●加藤副委員長

乗り換えって、時間的に余裕があるときは焦らないですけど、こういう数分とかの乗り換えなんかだと、利用者的には本当に乗り換えられるのかなとか行っちゃったんじゃないかなとか思っているんですよ。そうすると降りると、そこに例えば乗り換えたいバスがいたって
いうともう走っちゃうとか、一目散になっちゃうんですよ。

なので、そこはちゃんと待っているからゆっくりでいいよって
のはまあ運転手が言ってるのかもしれないですけど、そこはちょっとやっていかないと結構不満を感じますね。自分もそういう経験があるんですけども。

だから本当はスペースをきちんと確保していくっていうことをやらなきゃいけないんです。

現場の状況はタクシー乗り場も一緒なんですか。本当は分離してないといけませんよね。サクラが入るとまた大きいんですよね。

●事務局

そうですね、ヨシヅヤのバス停の場所なんですけれども、タクシーも利用しているような場所でございますので、かつヨシヅヤの立地ということもありますので、なかなか理想的な施設の形状にもっていくことが困難であるということもございまして、今ある条件の中
でなるべく間違いを防いで利用者の方に分かりやすい形でということ
を周知に努めるしかないのかなと思っております。

●加藤副委員長

まあでも、今2月で、改正は10月ですから、今のままと言っていないで、考えた方がいいんじゃないですか。施設を。何かできること

はないのかって。何もやっていないのは、ちょっとよくないと思います。

●前田会長

ありがとうございます。他に委員さんよろしいですか。

他にないようですので、ここで皆さんにお諮りいたします。増便に係るルート・ダイヤ改正案に関しまして、本日のご意見も検討することを踏まえまして、基本的に事務局案をご承認いただくということでよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

ありがとうございます。只今承認をいただきました。それでは、これで協議事項1について終わります。

続きまして、協議事項2点目「平成30年度コミュニティバスの利用促進施策案について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

〔協議事項(2)について事務局から説明〕

●前田会長

ありがとうございました。只今事務局から説明がございました。それでは、この協議事項について、委員さんから何かご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

●森委員代理

ケーブルテレビに取材してもらうことも非常に重要だと思いますが、利用度の向上という点からも、10月1日以前にも取材をしてもらうことも検討してはどうですか。

●事務局

はい。ご指摘のとおりだと思います。取材といいましても、1回は限りませんので、適宜取材をお願いしたいと考えております。ただ、相手のある話ですので、こちらの狙いどおりに事前に周知を図って、改正後は利便性の向上をアピールするというかたちで使えれば理想的だなと思います。

●前田会長

よろしいですか。

ほかに委員さん、何かありましたら。

●加藤副会長

乗り方教室の対象が、小学校3年生というのは、何か意味があるのですか。

●事務局

はい。こちらは市内の小学校で、3年生児童を対象に交通安全協会による自転車教室を開催しておりますので、そこに合わせて、バスの乗り方教室も開催しているという状況です。

●加藤副会長

小学生はいいんですが、一番訴求するのは幼稚園児だと言われていきます。こちらはもうすでに順次やっていることなので、やるのはいいいのかなと思います。理由だけ気になりました。

あと、ケーブルテレビが先ほどから出てきていますが、ケーブルテレビでやるときに、たとえば、この映像をユーチューブといったところに載せるといったところはどうですか。著作権がどこかにもよりますが、やれるなら、やってもらって、市のホームページにも載せていくといいです。

●事務局

確かに著作権がどこに属するかということに、関係すると思いますが、そのあたりはケーブルテレビの方に確認させていただいて、二次利用が可能であれば、積極的に活用していきたいと思います。

●加藤副会長

自分の政府広報とか、テレビに出たときは、そういうふうにしてもらっています。ケーブルテレビは、もちろん観る人は観ますけれども、外には全然波及しないですし、決して陳腐化する内容ではないと思いますので、そういうふうに使えるといいなと思います。

●前田会長

ありがとうございます。

ほかに委員さん、よろしいですか。

それでは、ほかにご質問もないようですので、ここでお諮りいたします。本件に関しまして、事務局案のとおり承認することとしても、よろしいでしょうか。

〔異議なし〕

●前田会長

はい、ありがとうございます。

それでは、これで協議事項2についての議事を終わります。続きまして、協議事項(3)「平成30年度レンタサイクル事業案」について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局説明〕

●前田会長

ありがとうございました。ただいま、事務局から説明がございまし

た。この協議事項について、委員さんから、何かご意見、ご質問がございましたら、お願いします。

●山田委員

山田です。貸し出し返却についてですが、枇杷島の方まで行くコースのこともありますので、そういったところにも返却場所を設ける必要があるんじゃないですか。枇杷島駅にも返却場所を設けないと、帰るのが大変だと思いますが、どうですか。

●事務局

現状、返却ポイントは名鉄新清洲駅と麒麟ビールの2カ所ですが、それ以外にも JR 枇杷島駅にも設けてはどうかというご趣旨だと思います。

過去、平成23年ですが、実証実験期間ということで、JR 枇杷島駅にも設けたことがございました。このときは、新清洲駅、枇杷島駅、ふるさとの館でやっております、実績の大半が新清洲駅に集中しておったということもございますので、こういったデータも踏まえすと、プラスアルファの理由がないと、もう1箇所増やすというのは、難しいのかなと考えております。

●山田委員

山田です。返却場所が西枇杷島にないと、実際に美濃路コースは使われますかね。どうお考えですか。

●事務局

はい。こちらのモデルコースについてですが、基本的に新清洲駅と清洲城の往復という今の利用実態からすると、あまり遠方への利用はございません。とはいえ、美濃路もめぐっていただきたいという思いで、このようにコース設定をしております。

本音のところをいいますと、返却ポイントを増やすとなると、予算も必要です。現状、平成30年度予算には計上していない状態です。

山田委員がおっしゃるようなご意見につきましても、新年度以降に予算確保に向けて、新しい返却ポイントの検討をしていきたいと思っております。

●前田会長

よろしいですか。

ほかに委員の方、ご意見、ご質問はよろしいですか。

●加藤副会長

モデルコースとしては、レンタサイクルをつかってもいい、自分の自転車でもいいよということだと思います。返却ポイントについては、戻ってこないといけないということであれば、周回コースにするということがいいのかなと思います。

たしかに単純に、これだけ道路がある中で、同じ道で戻りたければ

戻ればいいんですが、別の道で帰る方が楽しいですよ。

ちなみにこれは実際に走りましたか。実は推奨していたら、危ないところがあったりもしますので、そのあたりもマップに載せておくといいです。市役所にもサイクリングが好きな人がいると思うので、そういう人にやってもらって、その情報も書き込むといいですよ。

●前田会長

ほかにはよろしいですか。ほかにご質問もないようでございますので、ここでお諮りいたします。本件に関しまして、事務局案のとおり、ご承認いただけるでしょうか。

〔異議なし〕

ありがとうございます。

これをもちまして次第の「2 議事」を終わります。

以上をもちまして、本日予定されていた議事は全て終了いたしました。長時間にわたり、慎重にご協議いただきありがとうございます。

次に、次第の「3 その他」に移ります。事務局から何かがありましたらお願いします。

●事務局

すみません。ひとつ加藤先生に確認させていただきたいんですけども、議題1で増便についてお諮りをさせていただきました。ブルールート総合福祉センターのところ懸案として残ったところだと理解しております。

本来ですと、来年度の5月に公共交通会議を開催させていただきまして、そこで最終的なルート・ダイヤ改正についてご承認をいただいた上で、運輸支局さんの方へ申請手続きに入るというふうに考えております。

わたくしどもが気にしておりますのは、先ほど議題2の中でも利用促進ということでお話をしましたが、来年4月の「五条川さくらまつり」で、コミュニティバスの啓発ブースがございます。

春日地区は、ブルールートにより大きくダイヤが改編されるところでもございますので、できれば大々的に今回10月改正について周知をしたいと考えております。

ただ、時系列的に考えてみると、公共交通会議で決まるのは、5月だと。実質、今日、ここでいただいた懸案を会長、副会長預かりとさせていただいたとして、次に3月には議会がありまして、あくまでも議会で予算が通った後でないと決定はされません。

こうした時系列の中で、4月の啓発を諦めるのもありですが、どうしてもそこでやりたいなと思っておりますので、もし、皆さんのお許しがいただけるのであれば、事務局として責任を持って、やれる方向で、会長、副会長としっかりと協議をいたしますので、概ねこの件については、事務局案で了解だよというところをいただければと思います。ただ、あくまでも議会での議決がなければいけない話ですので、

もし何か3月の議会でありましたら、次回5月の公共交通会議の場でご報告をさせていただきます。

議会の場でご了解をいただければ、4月の「五条川さくらまつり」の場で、「ブルールートの新設」、「1時間に1本」というところを大々的にPRさせていただきたいなと思っておりますので、ここでもう1度皆さんにお諮りしたいなと思っておりますが、いかがですか。

●前田会長

いま、事務局からお諮りごとがございましたけれども、いかがでしょう。

●加藤副会長

2点懸念があって、ちょっと早すぎるんじゃないですか。10月の改正を4月に告知すると、逆にもう変わってしまったのかと勘違いする方もいるかもしれません。今乗ってね、あるいは10月に変わりますよというのはいいと思うんですが、詳しく紹介するという事は、なるべくやらないほうがいいと思います。

あと、運輸局の許可はまだですよね。「認可申請中」と書けば問題ないとは思いますが、今後、公共交通会議でそんなに大きく変わることはないと思いますが、議会の方もありますので、そのあたりで内容が変わってくると考えると、ちょっと気になりました。

むしろ、一番気になるのは、7月くらいの改正ならいいんですが、10月となると、まだ期間がありますので、そんなに便利になるなら早くやれよということに言われるんじゃないかと思えます。

●事務局

そうしますと、「ブルールートができますよ」「巡回ルートですよ」、もう一步踏み込んで「1時間に1本になりますよ」と言っているのかどうかは別として、先生のご経験則から言っているのでしょうか。

●加藤副会長

今の本数くらいはいいと思えますけれども、まだ半年先ですので、もっとこうしろというような声も出てきてしまうことも考えられますよね。

そういった意味では、そこそこ詳しく言ってもいいですけども、あまり言うと、まだ色々意見が言えるんじゃないかと思われるかもしれません。ですので、1時間に1本、ヨシヅヤで乗り換えができますといったことくらいは言ってもいいと思えますので、詳しいダイヤはまた出すので楽しみにしててねというくらいがいいと思います。

ただ、基本は今はまだこういうルート・ダイヤだけどつかってくださいねと言っておく方がいいですね。例えば、チラシでいうなら、上の4分の3は現状の紹介にして、下の4分の1くらいで、改正のことをいうみたいなのところがいいんじゃないですかね。

●事務局

1度、チラシの案ができましたら、先生の方にご相談をさせていただきます。

●加藤副会長

なので、改正の内容の説明は夏になったら行う方がいいと思いますね。確か日進なんかは早くから細かい情報を出していましたね。ただ、僕からすると、なら早く変えればいいのにと思いました。

あとは会長さんのご判断で。

●前田会長

我々公共交通会議としては、基本的には事務局案の中でやっていくということで了解しております。そのあたり、事務局も粗相のないようお願いします。

●事務局

ありがとうございます。

それでは、引き続いて、事務局から2点ほどご案内をさせていただきます。お手元に「相乗りタクシーの実証実験に向けた申請を許可」とのプレスリリースがあるかと思いますが、こちらは、加藤先生から情報提供いただきましたものです。

タクシー相乗りサービスの実験として行われるもので、類似の実験としては、東京以外では名古屋のこのケースだけとのことですので、参考としてお配りをさせていただきました。

この件については、加藤先生か支局さんから何かございますでしょうか。

●森委員代理

愛知運輸支局の森です。こちらは名古屋交通圏の協議会から相乗りタクシーということで、5社が名古屋東部のエリアで、今月の19日15日間実証実験を行います。こちらは実験をやるだけではなく、分析や評価といったところまでやっていくことになっています。

今まさに東京でもやっているところですが、名古屋が全国で2番目ということで、こうした取り組みによって、タクシーの利用のされ方がどう変化していくか、私も注目しているところです。

●加藤副会長

そういうことなんです。タクシーは1人で乗って、距離でいくらという設定ですが、この相乗りですとコンビで乗るので、偶然同じくらいの時間に同じ方向へ行くお客さんがいるのであれば、その2組が一緒に乗ったほうが、タクシー会社が繁忙期だったりすると、同じ方向で2台タクシーを出すよりもいい。

暇なときは2台呼んでもらったほうが儲かりますが、混んでいるときはむしろ同じ方向に行く人も多いただろうし、それぞれが勝手にタクシーを呼ぶと、なかなかタクシーが来ないので大変だということになる。そういうときに、同じ方向に行くのであれば、相乗りにすれば、

運賃も少し安くできますねということです。

タクシー会社としてもやっていきたいし、利用者としても、そういうのがあってもいいよねということで、これは国交省もいいよねといっています。

それで国交省の本省は、まず東京でいうことで、今すでに実証実験をやっていますけれども、名古屋でもやるにあたって、函館の未来シェアという会社がスマホでニーズを読み取って、流行の人工知能、AIでうまく組み合わせをつくるアプリを作って、進めることになっています。

函館の会社なんですけど、関わっているうちのひとは、名古屋大学の教員で僕の後輩でして、彼が名古屋でもやろうという話をしていて、私にも「こういうことをやりたいと思っているんです」というので、私も乗りがいいので、これはもうやるしかない、やろうということで、いろいろと特殊な許可も必要な話なので、僕が会長をしている名古屋交通圏タクシー活性化協議会を事務局として、タクシー会社さんでやれるところはぜひ手を上げてくださいということで、つばめさんがやっていただくということになりました。

先日セレモニーを行いました。セレモニーには僕も出ているんですが、結構メディアにも注目されています。実は今さっき取材の申込みがありました。

この名古屋交通圏というのは、清須市も名古屋交通圏で、名古屋でそういうことをやるので、清須市でも将来的にこういうことができるようになれば、清須市内で安くタクシーを使える可能性が出てくるので、今回皆さんにもこういうことがあるということを知っておいていただきたいということで、今回資料を用意してもらいました。

あしがるバスは、今回のルート・ダイヤ改正で2時間に1本というかたちで分かりやすくなるけれども、それ以上に本数を増やそうとすれば、市長や議会にお願いして5台、6台にしていくという話になってしまう。ただ、タクシーはいますので、いるタクシーをもっと便利に使おうとすれば、こういうこともあるよと。タクシーはどうしてもあしがるバスより高いけど、より自由に使えるので、その両方が使える方がいいということです。

私は今回の実証実験に関わっているので、清須もぜひそういうことを考えてほしいなと思います。

●事務局

ありがとうございました。もう1点、事務局からご案内がございました。

先ほど次長からも少しお話をさせていただきましたが、平成30年度の第1回会議は5月に予定しております。よろしくお願ひします。

また、その間に4月の春日五条川さくらまつりに合わせて、利用促進PRイベントを開催します。

委員の皆様におかれましては、イベント会場となる夢広場はるひへぜひ足をお運びください。よろしくお願ひします。

以上でございます。

●前田会長

ありがとうございます。事務局からも案内がありましたので、皆さんも会場へ足をお運びくださいますようお願いいたします。

最後に委員さんから何かございますか。

[特になし]

それでは、これもちまして、平成29年度第3回清須市地域公共交通会議を閉会いたします。

長時間に渡りまして、慎重なご審議ありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

4 閉会（午前11時45分）

問い合わせ先	企画部 企画政策課 052-400-2911 内線3214
--------	----------------------------------

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するためここに署名する。

会 長 前田 繁一

署名委員 山田 政勝

署名委員 宮崎 澄子